

分科会③【子どもが生活と道徳的諸価値を豊かにつなぎ、
よりよい生き方を求めるカリキュラム・マネジメント】

チームで取り組む道徳教育 ～毎月の「道徳の日」の実践を通して～

直島町立直島小学校 教諭 長曾 寿江

1 主張点

- ・ 子どもが生活と道徳的諸価値を豊かにつなぐために、「道徳の日」に学校行事や生活目標、各教科と関連する資料を使って学ぶことで、自己の生き方について考えを深めるきっかけとする。
- ・ 全教員が道徳的諸価値を共通認識して「道徳の日」に取り組むために、道徳教育推進教師が中心となって資料の提案や準備をする。

2 研究の概要

本校では、毎月第二火曜日を「道徳の日」とし、全校生が同じ時間に同じ道徳的諸価値について学ぶ活動を朝の活動20分間で行っている。本実践では、次のような視点をもって研究に取り組んだ。

(1) 児童が主体的に学ぶ学習づくり

本校は研究主題を「自立した生き方を学ぶ学習の創造」とし、児童が主体的に学ぶ授業づくりを推進している。「教材との出会い」－「問題づくり」－「自己内対話」－「他者との対話」－「概念化・振り返り」－「個の発展学習」と、流れを意識した授業づくりを行っている。しかし、週1時間の道徳科の授業のなかで「個の発展学習（実生活に道徳的諸価値を結びつけること）」や「教材との出会い（導入）」に時間をとれないことが多い。学校行事や生活目標とつないだ内容や教材文の補助資料として意図的に毎月の「道徳の日」を行うことで、より児童の身近な生活に寄り添った学習となるように工夫している。

(2) 道徳教育推進教師が中心となって、チームで行う「道徳の日」

全教員が「道徳の日」のねらいを明確にして指導をするには、統一した学習内容が必要である。中心となる道徳的諸価値は何か、どのような指導を行うかを道徳教育推進教師（以下推進教師）が提案し、管理職の指導のもと実施している。発達段階に応じたワークシートや黒板資料を用意することで、誰でも簡単に取り組める工夫を行っている。また、教員をシャッフルして学習する機会を学期に1度設けることで、道徳的諸価値を共通認識しながら全教員で児童を育てる環境をつくっている。

3 研究の実際

(1) 児童が主体的に学ぶ学習づくり

ア 学校行事とつないだ学習の工夫

本校では、外国語教育、ふるさと学習等特色のある取組を行っている。「道徳の日」では、児童が興味をもつような事柄や身近なことを取り上げることで、主体的に自己の生き方を考えられるように工夫している。例えば、県内のALTを島に招待し、英語でアート紹介などを行



【資料① 他国文化を知る学習】

う学校行事「Meet the World」がある月には、「国際理解、国際親善」を中心価値として取り上げる。電子黒板を使って、様々な国の場所や食べ物、文化の違いや国旗に込められた思いを学べるようにすることで、正しく他国を理解する力を養うことをねらいとしている。また、クイズ形式にするなど学び方を工夫することで、楽しみながら他国の文化に触れられるようにしている。(資料①参照)

イ 「特別の教科 道徳」とつないだ学習の工夫

「ふるさと香川」(香道研) や「新 みんなの道徳」(学研) など教科書を使って学習を進めても、教材から離れて生活につなぐ「個の発展学習」への時間が十分にとれないことが多い。そこで、道徳の日を核とした年間指導計画を作成した。「道徳の日」と道徳の時間で取り上げる道徳的諸価値をそろえることで、個について考える時間を補えるようにしている。「道徳の日」で行う内容が「教材との出会い(導入)」となるか「個の発展学習」になるかは、年間指導計画の見直しを行う年度末に学級担任が考えており、より効果的に「道徳の日」と道徳の時間をつなげるように実践を積み重ねている。(資料②参照)

【6年】 道徳の日を核とした年間指導計画

	道徳の日 テーマ	関連内容項目	生活目標	学校行事等	学習活動等の例	道徳科	各教科等
4月	学校の目標について話し合おう たくさんの友達と知り合おう	よりよい学校生活 自分	新学期の始まりを いいスタートにしよう。	1年生を迎える会 春の校内学習	学級の目標から自分の役割を考えよう ・どんな学級にしたいかについて意見交換する ・1年間のゴールを決める ・学級のために自分ができることを考える	ひとりと2人 食べ残されたえびにならぬだ く、 く、	(学)最高学年になって (学)男女の協力
5月	友達と協力して活動しよう	友情、信頼	気持ちのいいあいさつを しよう。	幼小中合同運動会	友達と一緒に活動して大切なことを考えよう ・友達といつこころを見つける ・気持ちのいいあいさつについて考える ・友達に感謝する言葉を考える	差し出しきて大きな手 余光の実験 命を見つめて 幸せをひって離るじゅうたん	(学)よりよい運動会にするために話 しあおう。 (学)動物の体のはたらき (学)火災について考え方 (国)田舎うづぼく

11月行事「Meet the World」に向けて、「国際理解、国際親善」を中心価値とした「道徳の日」を実施する。

10月	気持ちのいい言 葉、対応	相手のことを考えた あいさつをしよう。	あいさつ運動 幼小中合同運動会	気持ちのいい言葉をためよう ・言わねうとうれしい言葉を集める ・友達が増える言葉を集め ・やさしさが出来る言葉を集め	折り紙にこめた願い ブランコ乗りとピエロ おばあちゃんの指定席 どれいの故の父リンカーン
11月	世界とつながろう 国際理解	丁寧、正しい 接遇	学校旅行 他の校外学習 Meet the World	世界とつながろう 直島のアート作品について調べたり鑑賞したりする 外団の食べ物や生活についてかる 因縁にこめた願いを知る 自分の行動を見つけるよ	使ってみたクリスマス 前を向いて 移動歌での夜 まつりがアフリカを教う
12月	自分の気持ちを見つけよう 通勤、公共交通機関	学校をきれいにして 冬休みを迎えるよ。		家や学校でもできるすることを見つける 友だちの考えを開く みんなの後に立ったときの気持ちを考える	世界で 小川距離 マザー・アレサ 大みそかの朝に

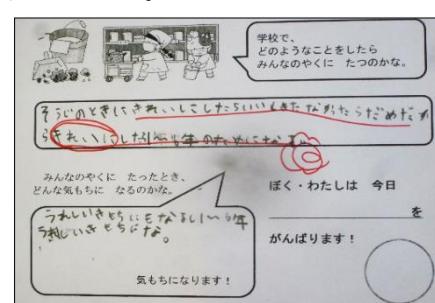
道徳科の授業でも「国際理解、国際親善」に関係する内容を全学年入れる。

資料② 【「道徳の日」を核とした年間指導計画の例】

ウ 生活や各教科とつないだ学習の工夫

毎月の生活目標や各教科との関連を図りながら「道徳の日」の学習を計画している。道徳的諸価値と生活を結びつけるために、「道徳学習の3類型」である繰り返し主題道徳学習も取り入れることで、自己評価できるワークシートの工夫も行っている。

「勤労、公共の精神」を中心価値として取り上げた際には、生活目標である「学校をきれいにしよう」や第1学年生活科の「じぶんでできるよ」など各教科との関連を考慮したワークシートを作成した。自分が決めた目標を達成したらシールを貼ったり、全学年がワークシートを掲示して、いつでも自分の行動を振り返ったりすることで児童も意識して生活することができていた。(資料③参照)



【資料③ 第2学年ワークシートの例】

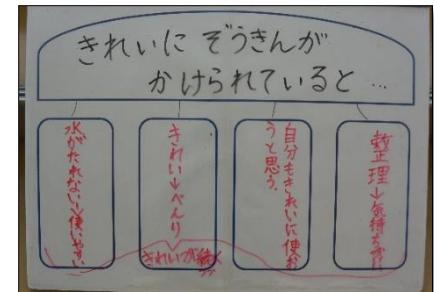
エ 学年を超えて主体的に対話し、子どもと子どもをつないで学びを深めるための工夫

本校は全校児童数 116 名と小規模校のため、異学年同士の交流も積極的に行っている。しかし、縦割り班活動や外国語活動の発表等が多く、自分の思いや考えを伝えたり聞いたりする交流は少ない。そこで、「道徳の日」で異学年の友だちと学び合う活動を通して、互いの思いを聞き合いながら考えを深める取組を行った。

中学年での実践では、「規則の尊重」を中心価値として学習を行った。学校のトイレやぞうきんつり、ロッカーなどの写真を 6 枚用意し、グループごとに違った場面を配布した。グループの発表を聞き合うことで、決まりを守ることによって、みんなが気持ちよく生活することができるという共通の思いにも気付くことができた。また、グループ交流の際には、上学年が下学年の思いを聞きながら一生懸命まなボードにまとめたり、「なるほど。」と友だちの思いを認め合ったりする姿がたくさん見られた。(資料④)



【資料④ 中学年合同「道徳の日」の様子】



【クラゲチャートで意見を整理する】

(2) 道徳教育推進教師が中心となって、チームで行う「道徳の日」

ア 全教員で実践する「道徳の日」

学期に一度、学級担任以外の教員も各学年に割り振り、T 1 として「道徳の日」を行う機会を設けている。推進教師が意図的に担当学年を決定することで、全教員で児童を育てる意識をもてるようになっている。「道徳の日」が行われる前には、担当教員と担任が児童の実態を考慮しながら授業の進め方を打ち合わせする姿が見られた。児童も、担任ではない教員の授業を楽しみにしており、温かいコメントが書かれたワークシートを嬉しそうに眺めていた。また、教員をシャツフルすることで、若年教員が他の教員の授業や学級の児童を客観的に見るきっかけにもなっている。(資料⑤参照)

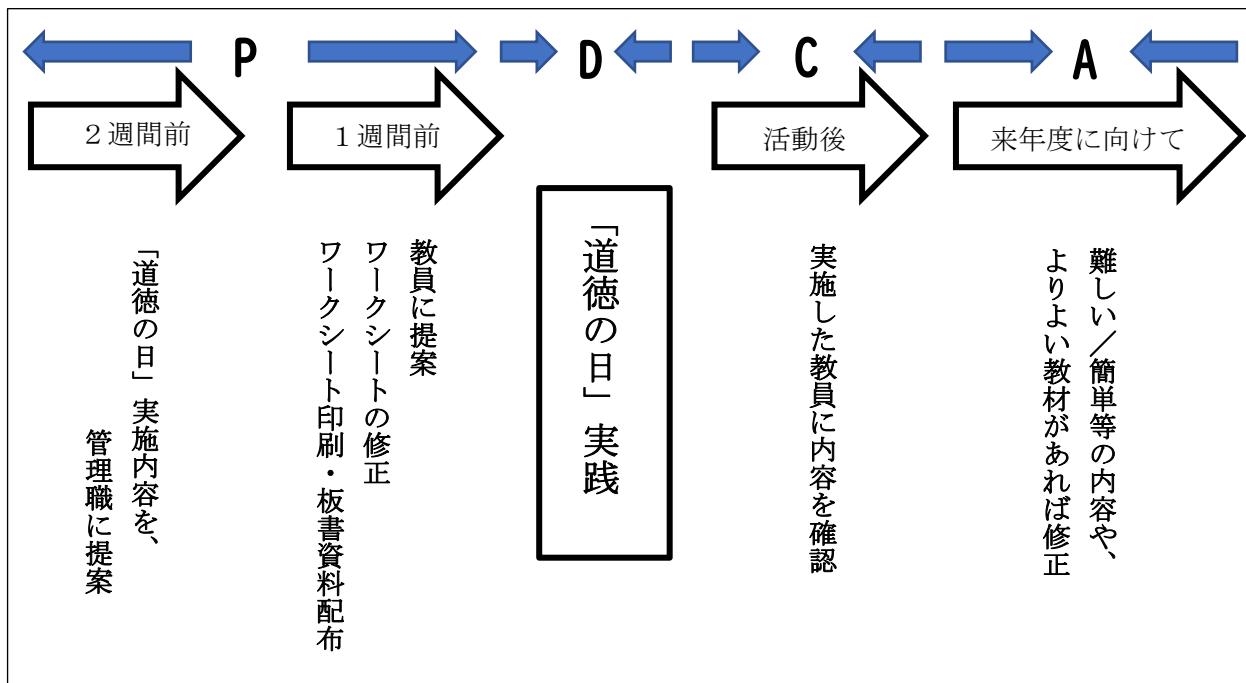


【資料⑤ 全教員で「道徳の日」を実践している様子】

イ P D C A サイクルを意識した「道徳の日」

「道徳の日」で学ぶ道徳的諸価値は同じであっても、学年や児童の実態によって目標は変わってくる。また、何をねらって「道徳の日」を行うのか全教員と共通認識を図るため、ワーク

シートと板書資料は推進教師が準備するようにしている。「道徳の日」が実施される月にある学校行事や生活目標と、道徳的諸価値がどのように結びつくのかを、学習指導要領解説や学校行事のねらいを参考にして決定している。教員に提案する際には内容項目の指導の観点を書くことで、6学年のつながりも意識できるようにしている。さらに、児童の実態を担任に確認しながら資料を作成することで、より価値に迫る学習内容を考えることができた。後日、実践した教員に感想を聞き、来年度に向けて資料を改善することも継続している。(資料⑥参照)



資料⑥ 【「道徳の日」を実践する前後の道徳教育推進教師の動き】

4 研究の成果と課題

- 児童が生活のなかでよく目にするものや場面を題材に取り上げることで、道徳的諸価値と生活をつなぐことができた。「道徳の日」や生活目標をきっかけに、中学年があいさつ運動を始めるなど子どもたちの意識も高まりつつある。また、学級活動や日々の生活のなかで、児童が自己評価をしながら自分たちの生活をよりよくしていくこうとする気持ちを高めることができている。
- 道徳教育推進教師が中心となって月ごとの目標を決めてワークシートや資料を用意することで、全教員による共通理解・共通実践を進めることができた。また、「道徳の日」を実施する前後に教員に感想を聞きながら進めることで、毎年少しづつ改善ができている。
- 2年生以上はワークシートを使用して行うことが多く、書くことが中心となってしまっている。自分で考え、友だちの意見を十分に聞くといった時間がとれないことが多い。写真や文章、動画などを見て、児童が自由に発言したり友だちの意見を聞いて考えを深めたりする活動を行うなど、多様な学び方も提案していかなければならない。また、子どもの主体性を高める問い合わせや授業づくり等、教員研修の在り方も実践を積み重ねていく必要がある。
- 2つの学年が集まっての「道徳の日」は実施したものの、全校生が集まって行う「道徳の日」はまだ実施できていない。全校生で考えられる共通の教材を考えるとともに、学習内容についても検討していきたい。